

令和6年2月 市長記者会見 配布資料

発 表 要 旨

期 日 令和6年2月 26 日(月)

時 間 午前 10 時～午前 11 時(予定)

発 表 内 容

- 1 令和5年度佐渡市一般会計補正予算について ……………<財政課>
- 2 令和6年度佐渡市一般会計当初予算について ……………<財政課>
- 3 佐渡市名誉市民の称号授与について ……………<秘書広報課>
- 4 記念撮影用モニターの設置について ……………<市民課>
- 5 佐渡トキマラソン2024の開催について ……………<観光振興課>
- 6 令和5年の観光客入込状況等について ……………<観光振興課>

【事前質問】

- ① 能登半島地震での犠牲者のおよそ4割が家屋の下敷きなどによる圧死でした。佐渡市は被災地となった珠洲市よりも一般家屋の耐震化率が低いようですが、現状で市内の一般家屋の耐震率はどのくらいでしょうか？ 今後、補助の内容を見直すなどの予定はありますか？
(建築住宅課)
- ② 能登半島地震以後、家屋全部を耐震化するのではなく、寝室など一部のみを耐震化する耐震シェルターが見直されています。佐渡市はこの耐震シェルターに対し補助金の支給を行っていませんが、今後対応する考えはありますか？(建築住宅課)

- ③ 内閣府の調査によると石川県の 19 市町のうち、防災、危機管理などの部局に女性職員が 1 人もいない自治体が 10 市町ありました。能登半島地震では女性被災者がジェンダー問題に直面しています。佐渡市の防災、危機管理などに携わる女性職員の割合、人数を教えてください。(総務課)
- ④ 内藤電誠工業が、島内の 2 工場を今年 12 月末で閉鎖し、佐渡から撤退する方針を決めました。「人材確保が困難」との理由を挙げています。今回の事案への受け止めと市の対応、島のものづくりを担う人材の確保対策について示してください。(産業振興課)
- ⑤ 10 市町村の合併で佐渡市が発足してから 3 月で 20 年となりますが、率直な所感や一つの市としての一体感をどう見ているか示してください。(総務課)

市長記者会見発表内容 要旨 (R6.2.26)

1 令和5年度佐渡市一般会計補正予算について

【配布資料あり】

<概要>

○ 国の物価高騰の新たな追加支援および能登半島地震への対応のため、一般会計補正予算第10号と第11号を専決処分するとともに、2月29日招集の2月定例会市議会に第12号の補正予算を上程します。

○【補正予算第10号】

1億9千688万9千円追加

① 国の物価高騰の新たな追加支援の経費を計上しました。

- ・ 低所得者世帯（住民税均等割のみ課税世帯）へ10万円を給付します
- ・ 低所得者世帯（住民税非課税世帯および住民税均等割のみ課税世帯）に児童1人あたり5万円を給付します

※いずれも3月中の給付開始に向けて準備を進めています。

② 能登半島地震の対応経費として、公共施設等の復旧経費を計上しました。

○【補正予算第11号】

3億8千254万6千円追加

能登半島地震で被害を受けた皆さまの復旧を支援するための経費を計上しました。

- ① 住宅などの生活基盤に著しい被害を受けた方に被災者生活再建支援金を支給します。
- ② 国や県の被災者住宅応急修理制度に該当する住宅は、被災の程度に応じ応急修理の支援を行います。
- ③ 地震被害復旧応援金事業では、国や県の被災者住宅応急修理制度の対象となる方に応援金を上乘せして支援するほか、国や県の制度に該当しない住宅やブロック塀などの修理を行った場合に、修理費用の金額に応じて定額の応援金により支援します。
- ④ 公共施設等の復旧経費を計上しました。

○【補正予算第12号】

3億567万円減額、予算総額547億8千807万8千円

- ① 能登半島地震により被害を受けた市内中小企業または小規模事業者等に対し、被災した施設・設備の修繕費用の一部を応援金として支援します。

- ② 能登半島地震などにより資金繰りに支障をきたすおそれのある市内中小企業または小規模事業者等が、県が推奨する制度融資を利用した際にかかる利子相当額の一部を支援します。
- ③ 公共施設等の復旧経費を計上しました。

2 令和6年度佐渡市一般会計当初予算について

【配布資料あり】

<概要>

- 「16か月予算」として、令和5年度補正予算で計上した能登半島地震への対応経費や原油価格・物価高騰対策事業などの繰越事業と一体的に編成し、年度当初から被災者への支援や島内の経済・地域活動を維持・活性化に向けて積極的に取り組めるよう、所要額を計上しています。
- 「安心して暮らし続ける島」と「地域循環共生圏の創出」の2本の未来像に向けた施策に取り組む一方、持続可能な財政基盤を維持していけるよう、人口5万人の市における適正な市民サービスを見据えた公共施設や組織の最適化を念頭に置きつつ、民間の積極的な活用やデジタル化を進めるとともに、国や県の財源を活用し、最少の投資で最大の効果が得られるようにさらなる効率化を図るなど、行財政改革に取り組むスタートの年として予算を編成しました。
- 予算規模は、480億円で、前年度の当初予算と比較して32億2千万円、率にして6.3%の減です。

【歳入】

- ・ 合併特例債の発行期限終了などで、市債が31億8千9百万円の減となったほか、定額減税による個人市民税の減を見込み、市税が1億7千9百万円の減となりました。
- ・ 財政調整基金繰入金は、前年度と比較して5億3千3百万円の減となりました。スリムな行政運営を目指し、さらなる繰入額の縮減を図ってまいります。

【歳出】

- ・ 普通建設事業が40億6千3百万円の減となっています。
- ・ 災害復旧事業が16億5千4百万円の増となっており、能登半島地震により被災した佐渡クリーンセンターの災害復旧費が主なものです。

【重点施策における主な取組み】

持続可能な島づくりのビジョンの実現に向けて、5つの戦略を柱に事業の重点化を図り、取り組んでまいります。

①「市民と共に創る島」

- ・地域コミュニティ交付金制度などにより地域の取組みを支えるほか、路線バス減便地域においてコミュニティバスを運行し、市民の移動手段を支援するとともに、地域協働型交通実証事業により、地域団体等による地域内交通の構築に取り組んでまいります。

②「子どもから高齢者まで夢や希望が持てる島」

- ・助産師による育児相談などを行う産後ケア事業を行うほか、妊婦・子育て世帯に寄り添った伴走型の相談支援に加え、出産・子育て応援金等の経済的支援により、安心して出産・子育てができるよう引き続き支援してまいります。
- ・健康寿命日本一を目指し、健康フェスティバルの開催など市民の健康への意識の醸成を図っていきます。

③「医療・介護・福祉を守る島」

- ・地域の支え合い活動の拠点として、常設の居場所「通いの場」をモデル的に設置します。
- ・新潟県と連携した医学部地域枠の奨学金制度を継続して行い、佐渡医療圏に関わる人材確保に取り組んでまいります。

④「防災力が高い安全・安心な島」

- ・災害時における地区避難所での電源の確保を図るためV2Hの設置をすすめていくほか、木造住宅の耐震改修への支援について増額計上しています。
- ・森林環境譲与税などを活用し、電柱などインフラ施設に隣接する杉林や竹林を広葉樹に樹種転換することにより、防災・減災だけでなく、生物多様性保全や脱炭素・持続可能な島に貢献できる森づくりを推進してまいります。

⑤「元気な経済と多様な人が活躍する島」

- ・佐渡金銀山の世界文化遺産の登録を見据え、観光庁の補助事業を活用して、きらりうむ佐渡を拠点とした循環バスの導入によりパーク・アンド・ライドを推進していくほか、両津港を拠点としたライナーバスの運行などにより島内における観光二次交通対策に取り組んでまいります。

- ・「特定地域づくり事業協同組合」の設立と運営に取り組むとともに、若者移住体験住宅など、若者をはじめ多様な移住者の受入れ環境の整備をすすめ、「住む」と「働く」をセットにした受入体制の強化を図ってまいります。
- ・地域での話し合いにより、将来の農地利用の姿を明確化する地域計画の策定を、農業委員会と連携しながら取り組むほか、脱炭素と生物多様性の取組みを積極的に推進し、佐渡の環境ブランドを高めていく手法として、オーガニックの取組みなどを進めてまいります。
- ・SDGs 未来都市への取組みとして、循環型社会の形成に向けて、各家庭での段ボールコンポストによるたい肥化を消費者協会などと連携して取り組んでまいります。

3 佐渡市名誉市民の称号授与について

<概要>

- 旧佐和田町出身の金工作家で文化功労者の宮田亮平さんに佐渡市名誉市民の称号を授与します。
- 合併記念日である3月1日午後3時から、佐渡市役所本庁舎において「名誉市民称号授与式」を行います。
- 令和5年度の「佐渡市ほう賞授与式」を併せて行います。様々な分野で永年にわたり社会に貢献された方々のご功績をたたえ、市制施行20周年の大きな節目を迎えるにあたり、例年より多くの方を表彰する予定です。

4 記念撮影用モニターの設置について

<概要>

- 3月1日から、市民窓口サービスの一環として、婚姻届や出生届などで来庁した方々が利用できる記念撮影用モニターを、市役所本庁舎1階待合スペースに設置します。
- 背景画像は、8種類の中から選ぶことができ、平日午前9時から午後5時までの間、いつでもご自由に撮影いただけます。
- 窓口職員が画面表示の切り替えや撮影をお手伝いいたします。

5 佐渡トキマラソン2024の開催について

<概要>

- 4月21日、「第15回佐渡トキマラソン2024」を開催します。
- 前日20日に1.5kmと3kmのファンランを新たに企画しました。
- ゲストに、佐渡4大スポーツ大会すべてに参加を表明したオリンピックメダリストの松田文志（まつだたけし）さんと、女子バレーボール日本代表でオリンピック4大会出場の荒木絵里香（あらかきえりか）さんをお招きします。
- 松田さんは21日のフルマラソンに、荒木さんは20日のファンランにご参加予定です。
- 大会エントリー期間は3月15日までです。
- ボランティアスタッフも募集しています。
- 本大会と10月13日に新潟市で開催予定の「新潟シティマラソン」とのコラボ企画を実施します。両大会のフルマラソンを完走された方へのダブル完走メダルの贈呈、「新潟佐渡カップ2024」として2大会のフルマラソンの合計タイムで順位を競うことなどを予定しています。両大会のホームページなどで情報発信します。

6 令和5年の観光客入込状況等について

<概要>

- 令和5年1月から12月までの観光入込数は約44万2千人で、前年の令和4年（約36万6千人）と比較し120%、令和元年と比較すると89%という状況でした。
- 島内の宿泊者数は約32万1千人で、前年の令和4年（約27万7千人）と比較して116%、令和元年と比較し91%という状況です。
- 現在推計中ですが、国の補助事業等を活用した宿泊施設の改修をはじめとする高付加価値な取組みの推進により、旅行消費額単価は令和元年と比較して大きく増加しているものと推測しています。
- 方面別の入込は、令和4年対比で関東方面が134%、関西方面が151%となっており、令和元年と比較してもそれぞれ93%、94%と回復が見られます。「佐渡島の金山」の世界遺産登録に向けての期待感による団体観光の増加に加え、交通事業者などと連携して積極的なプロモーションを行った成果として個人旅行への訴求に繋がっているものと考えています。

- 目的別では、帰省が令和元年と比較して67%に留まっています。帰省客の回復に向けた取組みとして、特に若い層が祭りなどのシーズンに地域と交流できる仕掛けづくりなどにより、佐渡との繋がりを意識していただくことが重要と考えます。
- 世界遺産登録をきっかけに初めて佐渡にご来訪されるお客様にご満足いただける受入れ体制と、便利に利用いただける島内交通の推進に努めてまいります。
- 佐渡市においても、地震の影響による旅行のキャンセルが一部発生していると聞いています。政府発表のありました「北陸応援割」に加えて、佐渡市独自のキャンペーンなどを検討しています。